

NETIS事後評価結果 品質・出来型で高評価

東宏ら開発の覆工コンクリートトータル養生工法

国土交通省の新技术活用評価会議はこのほど、東宏(本社・札幌)と西

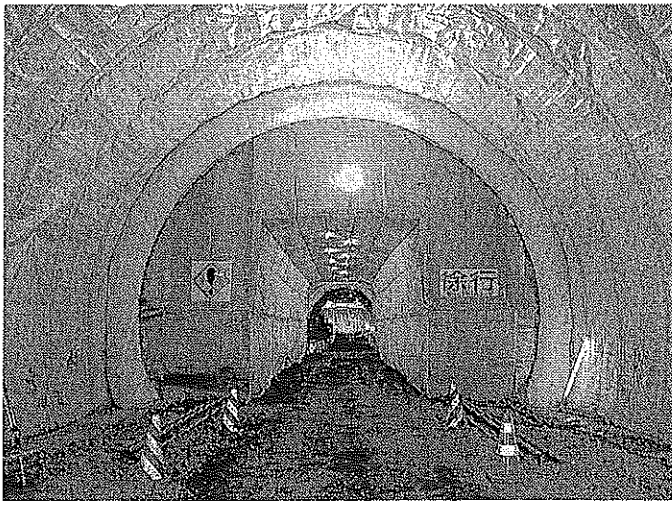
松建設が共同開発した覆工コンクリートトータル養生工法「トンネルバルーン」のNETIS(新技術情報提供システム)事後評価結果をまとめた。中国地方整備局と近畿地方整備局発注の計5現場での活用効果を検証し、「品質・出来型で高い評価が得られた」「現場で高い安定性を有する」と評した。

トンネルバルーンは、打設直後のセントル(トンネル覆工用のコンクリート型枠)をバルーンで覆うセントルバルーンと、

セントル脱型後の覆工表面をバルーンで覆うコンクリート用バルーンで構成。坑内の温度や湿度、風の影響を遮断し、高品質な覆工コンクリートの形成に効果を発揮する。2002年に開発に着手。03年に新潟県の飯山トンネル(鉄道・運輸機構発注)に初めて採用され、04年にNETIS登録した。

NETIS登録技術は、総合評価落札方式や工事成績評定で加点の対象になることから、トンネルバルーンは開発局、道府県、各地方整備局、NEXCO東日本などの現場でも急速に普及が拡大。12年3月末時点の採用件数は216件に上っている。

東宏では事後評価結果を「価値ある技術」として正式に認められたと受け



NETISの事後評価で高い評価を受けたトンネルバルーン

止めている。この評価を普及拡大に努めたい」とPR材料として活用している。